

〔視点4〕全ての生徒が落ち着いて取り組める学習環境

1 学級を学び合う学習集団に育てる。

◆ 生徒と生徒、生徒と教師の人間関係づくり

生徒と生徒、生徒と教師の人間関係づくりは、授業づくりの大きな土台です。「主体的・対話的で深い学び」の授業を実現するためには、全ての生徒が学習に参加でき、互いの考えを深めたり広げたりすることができる学習集団をつくることが重要です。

【POINT】

- ・生徒の主体的な学習につなげ、人間関係をつくるために、まずは、「聞く（聴く）こと」を重視することが大切です。

〔「聞く（聴く）こと」の指導の例〕

- 相手を認める
- 話し手が伝えたいことを意識して聞く
- 自分の考えとの共通点や相違点を考えて聞く

◆ 学校や学年で統一した授業ルールの定着

生徒に「授業ルールは、全員が落ち着いて気持ちよく学習するためのもの」であることを理解させることが重要です。

学校や学年で統一したルールを設けるとともに、ルールが守られている場面を価値付けるなど、繰り返し指導し定着を図ります。

【POINT】

- ・守られていない場面を指摘するだけでなく、守ろうと努力している場面を認めることが大切です。

〔学校や学年で統一する授業ルールの例〕

- 発言の仕方、聴き方
- ペア・グループの話合い方
- 机上の学習用具の位置
- 始業時刻と同時に授業が始められる

2 学習に適した教室環境を整備する。

◆ 教室環境の工夫

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、生徒がねらいに応じてどのような形態で学習をするのか、一斉指導やグループでの話合いを行う際の座席配置やグループの人数を吟味することが大切です。

グループでの話合いの際には、ホワイトボードを使い、発言や考えを類型化したり、ベン図やフローチャートなどの思考ツールを活用して考えを視覚的に示したりすることができるよう、教室にこうした用具を準備することも大切です。

【POINT】

- ・学習内容の定着や生徒の自主的な学習を促すために、学習に必要な図書の整理や、学習の成果物の掲示など、学習に適した教室環境を整備することが大切です。

〔教室環境の工夫の例〕

- 本、新聞等の常設
- 模造紙を活用した学習成果の掲示
- ホワイトボードの準備
- 学習形態に応じた座席配置

3 学習環境として教師の言動を整える。

◆ 生徒にとって学習環境としての教師

教師のものの考え方や感じ方、行動の仕方、生徒へのかかわり方など、全ての言動が、生徒に影響を与えます。教師自身も重要な学習環境であることを自覚し、生徒一人一人を指導する姿勢が大切です。

【POINT】

- ・授業時間や生徒の呼名、机間指導の回り方等、日常の教育活動における教師の言動の丁寧さ、平等性・公平性を常に振り返り、日常の授業や学級経営において、生徒に対する適切な配慮のもと、一人一人が大切にされる学習環境づくりに努めます。